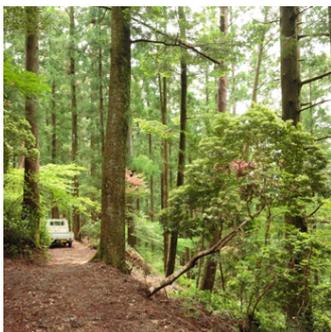


(経済性と環境性を高い次元で両立させる自伐林業による多間伐施業の森)

皆伐を止め、道を入れて択伐した森づくり

森林施業と生物多様性の高い森林生態系との両立を示す、貴重なモデルであり、中山間地域で注目されている小さな林業の目指すべき形として、現在施業中の林業家や新規就業を目指す若手林業家の手本となっている。「木材生産のための森林の中に、自然度の高い植生が保持されているこの人工林は森づくりの学びの場となっていて、多くの林業関係者や研究者が橋本氏の林地を訪れる。そして、人々はその森の豊かさに驚き、癒やされて帰る（鎌田、2018）」と述べられているように、文化サービスも提供している。作業道があることで、山歩きに慣れていない人や子供でも山の豊かさに触れることができ、ツツジや野生のラン、苔など、四季折々の美しさが楽しめる。



林業と自然が調和する生物多様性豊かな美しい森

樹齢は30年生から約150年生まで幅が広く、どの森も200年生以上を目指して展開している。樹高が高く高樹齢の森を維持させるためには、風・雨・光等の自然からの圧力から植物生態系を守ることで対応している。

尾根付近や林縁部で木材生産を長期的に維持させるためには風を防ぐ必要があるが、そのためにモミや広葉樹の多い天然林を残すことで強風が林内に入るのを防いでいる。また豪雨時の土壌流出を防ぐためや、光の入り過ぎによる土壌乾燥の防止対策も実施されている。一例として、谷部で土石流を極力発生させないために、谷部にも広葉樹を残し、さらに谷を渡る作業道に洗堰（小さな砂防堰堤ともいえる堰）を設置し、谷で発生した土砂を止める砂防効果を持たせている。作業道は他の部分でも斜面崩壊防止効果や土中環境を改善させる効果、水源涵養効果を持たせる工夫を施し、森林環境改善と土砂災害防止等の効果をより高めている。

【主な植生】

木材を生産し生業とするためのスギを中心とした人工林でありながら、尾根筋と谷筋中心にモミ、ケヤキ、シイ、カシなどが生育する針広混交林化し、250種以上の植物種が存在。地形に対応して出現する種群からなる11の植生型が識別されており、例えば、尾根では、植えられたヒノキの林床にモチツツジが保持され、また、天然性のモミが残る。斜面のスギ林冠下には、コジイーアセビ型植生、ケヤキーイロハモミジ型植生が出現するなど、人工林として良好な環境が保たれている。

【確認された主な動植物】

92科254種の植物(常緑高木35種、常緑低木16種、落葉高木43種、落葉低木33種、草本56種、ツル植物29種、シダ42種)が生育

【確認された希少種】

徳島県版レッドリストに掲載されている種10種（絶滅危惧IA類2種、同IB類3種、同II類3種、準絶滅危惧2種）が生育。



橋本山林 受賞歴

- 1996年 朝日森林文化賞
- 2016年 全国林業経営推奨行事「農林水産大臣賞」
- 2016年 第55回農林水産祭「内閣総理大臣賞」
- 2018年 「旭日単光章」受賞
- 2023年 環境省 自然共生サイト認定
- 2024年 OECM登録 <https://www.protectedplanet.net/555781409>

経営理念

- ・妨げとなるものを取り除く（一利を興すより一害を除く）
- ・調和を図る
- ・変わらぬものを求める（良いものは守り改善すべきものはする）、流行を追わず本質を求める
- ・仕方なく、仕組みを変える
- ・自然に学び自然の力を借りる、自然は知恵の宝庫

「2人で林業」



動画が見られます

橋本 光治

1978年に銀行を退職し、先代から森林経営を引き継ぎ、83年から大橋慶三郎に師事して、作業道開設に取り組む。100haの山林に30kmの高密度の路網を張り巡らせている。森林保全と長伐期優良大径材生産を軸に、針広混交林の山づくりを目指してきた。全ての施業を家族で行っており、家族経営的に自伐型林業のモデルとして位置づけられる。「木一本たりとも傷つけるな、石ひとつたりとも落とすな、虫一匹たりとも殺すな」



橋本 延子

1978年、夫とともに帰郷し、祖父の代からの山を受け継ぐ。2003年「那賀川こまち」設立。6歳より踊りを始め、猿若宗秀、猿若栄晃師に師事。1996年、猿若流名取りを許される。2000年、寶成会（新舞踊・民踊）師範を許される。三味線を「和の学び舎」藍師に師事。



橋本 忠久

2001年に会社を退職し、林業を継ぐために実家に戻る。父母とともに家族経営で専業自伐林家を営む。大橋慶三郎氏考案の作業道づくりを継承する。自伐型林業推進協会の講師として、全国各地で作業道の指導を行っている。

「しっかり」「丁寧に」「美しく」



NPO法人自伐型林業推進協会

〒105-0003

東京都港区西新橋1-4-12 新第一ビル5F

info@zibatsu.jp tel 03-6550-8141

zibatsu.jp

